

令和4年11月22日
(2022年)

吹田市立博物館
館長 高橋 真希 様

吹田市立博物館協議会
委員長 橋爪 節也

令和3年度(2021年度)吹田市立博物館事業評価報告書について(報告)

吹田市立博物館の令和元年度事業評価について吹田市立博物館協議会では令和4年8月24日および令和4年10月27日において慎重に審議した。下記のとおり吹田市立博物館が目指す活動目標に沿って、その結果について報告する。

記

- 1 提出する報告書 令和3年度(2021年度)吹田市立博物館事業評価報告書

以上

令和3年度(2021年度)事業評価

(大項目) 1. 地域の歴史・文化・自然遺産を守り、未来へ伝える博物館						
目標	吹田市に残された大切な歴史・文化・自然遺産などの地域の文化に関する資料を継続的に収集、整理し、市民共有の知的資産として未来にも利用できるように保管管理します。また、地域の歴史と文化に関して調査研究を推進し、その研究成果が市民の知的財産として活用されるようにします。					
(中項目)①資料の収集・保管・活用			自己評価点	自己評価点	外部評価点	
(小項目)	(重点項目) a. データベースの構築	指標・目標	データベース構築の進捗度	A	<p>【自己評価】</p> <p>《資料の収集・保管・活用》 博物館ITに関する問題点の整理と解決方針を検討するため、若手学芸員を中心に「博物館ITチーム」を立ち上げ、データベースについても外部ソフトの選定、クラウドサーバーの利用等の方針を決め、市情報政策室と協議を行った。令和5年度の予算化を目指す。</p> <p>重点収集資料は大坂画壇関連資料で金子雪操筆の襖である。また、美術資料で西村公朝関連のビデオテープと図書の寄贈を受けた。新型コロナウイルス感染症関連の資料の収集も継続しているが、分類と整理の方法が課題である。</p> <p>[重点収集資料]大坂画壇関連資料 8点(2組) [歴史] 456点(資料総数 22,962点) [美術] 627点(資料総数 1,715点) [考古] 1,180点(資料総数 4,191点) [民俗] 314点(資料総数 4,370点)</p> <p>新規収集資料を対象に年2回の燻蒸庫燻蒸と、本年度は収蔵庫燻蒸を実施年度のため、特別収蔵庫と一般収蔵庫を対象に燻蒸を実施した。どちらも良好な結果となっている。</p> <p>《調査研究》 出口座と現代人形劇関係資料は令和4年度春季特別展図録で成果を公表した。絵図資料は『吹田の絵図集』としてまとめ刊行した。</p> <p>常設展示大規模リニューアルの基本構想策定に向けて、引き続き最近の他館の動向などの調査を行った。</p> <p>本年度は、2本の研究発表を行った。「新芦屋古墳」は夏季特別展実施後の問題整理と今後の課題、「出口座」は事前の研究段階の到達点と展示内容についてであった。それぞれの情報を共有し、質疑応答等で学芸員同士の理解を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新芦屋古墳の諸問題」(竹原) ・「『出口座と阪本一房展』の構成とその内容」(藤井) 	<p>【外部評価】</p> <p>資料収集・収蔵環境維持・研究という根幹の部分の評価した。全体に計画通りに着実に事業を遂行しているものと思う。コロナで対面活動ができなかった時期だからこそ資料収集やデータベース化など基礎的な活動が進んだようである。また、収蔵環境も良好に保たれている。</p> <p>第2次中期計画中に進展があまりみられなかったデジタル化については「博物館ITチーム」を立ち上げ、具体的に動き出し、令和5年度の予算化を目指すところまで館内協議が進化した点は評価できる。資料のデジタル化、データベースの整備・公開は、市民による利用環境を格段に改善するだけでなく、博物館の効率的運用にも大きな利便性を与えるものである。</p> <p>ITシステムについては、弱みを持つといえる、ただ、この弱点が生きるような「発想の転換」ができないだろうか。将来構想を示して希望などを募ることもして欲しい。中期計画が掲げる令和5年度の予算化が計画通り実現することに期待したい。</p> <p>厳しい状況の下でも寄贈を含む新規の資料の収集を着実に進めていることは高く評価できる。今年度は特に美術資料の収集に成果を挙げているように見受けられる。また、新型コロナウイルス感染症関連資料の収集が継続して行われている点は、先駆的な取り組みである。今後の活用方法について、短期的・中期的・長期的な視点に分けて議論を積み重ねる必要があるように思われる。また、地域資料の調査研究を進め、地域の歴史や文化財研究による堅実な展覧会開催を評価した。その成果が公開されている。</p> <p>館内研究会については、回数は目標に達して、内容も充実している。</p>
		実績	自己評価欄に記載			
	(基本事業) b. 資料の収集	指標・目標	収集方針に基づいた資料収集を行い、適切に整理・登録を行っているか。	A		
		実績	自己評価欄に記載			
	(基本事業) c. 収蔵環境の維持	指標・目標	新規収集資料燻蒸回数(2回/年) 館内環境調査回数(2回/年) 収蔵庫燻蒸回数(1回/3年)	A		
		実績	新規収集資料燻蒸回数 2回 収蔵庫燻蒸回数 1回			
(中項目)②調査研究			自己評価点	自己評価点	外部評価点	
(小項目)	(基本事業) a. 地域史に関する調査研究	指標・目標	調査研究件数 5件	AA	<p>AA</p>	<p>A</p>
		実績	地域資料調査 16件			
	(基本事業) b. 博物館運営に関する調査研究	指標・目標	調査研究件数 3件	A		
		実績	自己評価欄に記載			
	(基本事業) c. 学芸研究会業)	指標・目標	学芸研究会実施回数 (2回/年)	A		
		実績	学芸研究会実施回数 2回			

2. 地域文化の情報発信拠点としての博物館								
目標	地域の歴史と文化を紹介する常設展示と幅広い利用者層が楽しみ、参加、体験できる企画展示により市民の多様な学習活動に応じるとともに、市民の多様な自主的学習を支援するための生涯学習の拠点とします。また、地域の文化の情報拠点の役割を担い、他の博物館、文化施設とも広く連携を図ります。そのため、博物館の情報公開性を高め、地域文化に関する資料や博物館運営に関する情報を迅速に発信公開します。							
(中項目)①常設展示				自己評価点	【自己評価】	自己評価点	【外部評価】	外部評価点
(小項目)	(重点項目) a. リニューアル	指標・目標	リニューアル計画の進捗度	A	<p>《常設展示》 常設展示大規模リニューアル構想をもとに展示リニューアル案を2通りまとめた。令和8年度～12年度に予定される建物大規模改修工事に合わせて実施することを目標に市資産経営室との協議を始めた。 「さわる月間」は中止としたが、年末には常設展示室の触れる資料の展示を再開した。</p> <p>《企画展示》 令和3年度(2021年度)は新型コロナウイルス感染症拡大のため、春季特別展「新芦屋古墳展―被葬者の謎にせまる―」は延期して夏に開催、企画展「神崎川展―川港・吹田の物語―」、夏季展示、秋季特別展「西村公朝 挿絵原画の世界」は中止としたが、代替として企画展「吹田の絵図展」を実施した。その他に特別企画「むかしのくらしと学校」、ミニ巡回展「流行病と新型コロナウイルス～100年後の人たちへ～」、ロビー展示「吹田の小学生がつくるコロナとわたしたち展」を開催した。</p> <p>西村公朝資料については、「ふれ愛観音像」は国立民族学博物館の特別展に貸出し、出品した。また、ミニ展示「彫像コレクション」に彫刻《聖汗》(個人蔵)ほか4点を展示した。</p> <p>《地域学習の支援》 実施できたイベントの回数と人数は、前年度よりは大きく増加したが、指標値には達していない。一方、ホームページ上で公開しているオンライン講演会・講座には新たに11本のコンテンツを追加した。公開中のコンテンツの年間総視聴回数は55,936回であった。</p> <p>出前講座は講師派遣の回数及び参加人数も前年度に比べ増加したが、指標値を下回っている。依頼講座は、ロビー展示「吹田の小学生がつくるコロナとわたしたち展」に伴うものが、6回中5回であった。</p> <p>レファレンス31件の質問手段の内訳は観覧者3件、来館10件、電話15件、Eメール3件であった。レファレンス数は増加したが、レファレンス業務の見直しは進んでおらず、引き続き課題である。</p> <p>《情報発信》 アクセス数は、指標値は超えたが、前年比4.5%減であった。ログ解析によれば、特別展は26%、イベントカレンダーは21%、バーチャル・ミュージアムは19%閲覧数が上がった。一方、モバイルからのアクセスが増え、デスクトップからは減少した。今後、端末機を意識したホームページの運営が必要であろう。フェイスブックは投稿内容が展覧会やイベントの告知中心であったため、展覧会・イベントの中止により投稿回数が激減した。レファレンス数も減少傾向であり、今後はコロナ禍での情報発信ツールとしてのSNS利用、レファレンス業務のあり方、周知方法を検討する必要がある。</p> <p>フェイスブック投稿回数は、展覧会やイベントの告知中心であったため、本年度も多くなかった。情報発信のあり方を継続して検討していく。</p> <p>本年度の取材・報道は、テレビが2件、新聞が1件にとどまった。新型コロナウイルスの影響で展覧会の延期、中止があり、計画的な情報提供が難しかったこともあった。様々な状況下での対応が今後の課題である。</p>	<p>コロナ感染症対策のための、展示およびイベント等の中止・縮小はやむを得ない。こうした状況の中で、「さわる展示」「西村公朝資料の展示と活用」「多様なイベント開催」「出前講座・依頼講座の開催」には、指標を下回っているものも多い。いずれも困難を極めた状況はよく理解できる。そうした中でもオンラインの活用による企画などの経験をどう活かし、通常の展示・イベント開催にどのように戻していくのか、柔軟な発想が求められていると思う。引き続きコロナ禍に左右されるなど、運営の難しい部分はあるが、その状況における最適な方法で柔軟に取り組みすべきである。また、今後、展示やイベントができるようになったときの準備や検討がどのようになされたかを記録し、自己評価にも記載しておくが良い。</p> <p>令和2年度にスケジュールにのせた大規模改修について協議を進めたことは評価できる。常設展示大規模リニューアルを念頭においた展示リニューアル案の検討が着実に進んでいる。数十年に1度の貴重な機会であり、リニューアルの実現に確実に繋げるとともに、展示内容を精査し、展示論の到達点を踏まえたリニューアルとなるよう期待している。</p> <p>触る展示は“ユニバーサルデザイン”であることを認識し、さらに前へ進めていってほしい。また、西村公朝氏に関する展示会の継続を大事にし、「公朝さんといえば吹博」のようになってほしい。</p>	A	
	(重点項目) b. さわる展示	指標・目標	「さわる月間」の開催(1回/年)	A				
	実績	中止						
	実績	自己評価欄に記載						
(中項目)②企画展示								
(小項目)	(重点項目) a. 特別展等の開催	指標・目標	展示目標は達成できているか。	A	<p>展示目標は達成できているか。</p> <p>自己評価欄に記載</p>	A	<p>令和2年度にスケジュールにのせた大規模改修について協議を進めたことは評価できる。常設展示大規模リニューアルを念頭においた展示リニューアル案の検討が着実に進んでいる。数十年に1度の貴重な機会であり、リニューアルの実現に確実に繋げるとともに、展示内容を精査し、展示論の到達点を踏まえたリニューアルとなるよう期待している。</p> <p>触る展示は“ユニバーサルデザイン”であることを認識し、さらに前へ進めていってほしい。また、西村公朝氏に関する展示会の継続を大事にし、「公朝さんといえば吹博」のようになってほしい。</p>	A
	(重点項目) b. 西村公朝資料の展示と活用	指標・目標	展覧会は実施の有無	A				
		実績	展覧会は中止					
	(基本事業) c. 企画展示の中期計画立案	指標・目標	展示の中期計画立案の有無	A	立案した			
		実績	立案した					
(中項目)③地域学習の支援								
(小項目)	(重点項目) a. 多様なイベントの実施	指標・目標	イベント回数 107回/年 参加者数 5,363人/年	B	<p>イベント回数 107回/年 参加者数 5,363人/年</p> <p>イベント回数 40回 参加者数 848人</p>	B	<p>展示やイベントの中止・縮小のなか、ホームページの充実やソーシャルメディアの活用が期待される。SNS利用の活用が掲げられているが、市の公式フェイスブックのみで、投稿数もかなり少ない。コロナ禍による制約も多いが、そうした状況であるからこそ、一層の広報発信の強化が望まれる。・情報発信も告知に限らない内容を検討されたい。SNSは柔軟・機動的な対応を行っていただきたい。自己評価にもあるとおり、モバイルからのアクセス対応として、文字の大きさなどの改善をお願いしたい。</p>	A
	(基本事業) b. 出前講座・依頼講座	指標・目標	出前講座回数 32回/年 参加者数 1,172人/年	B				
		実績	出前講座 21回・参加者数 565人					
	(基本事業) c. レファレンス業務	指標・目標	レファレンス件数 39件	B	レファレンス件数 31件			
		実績	レファレンス件数 31件					
(中項目)④情報発信								
(小項目)	(基本事業) a. ホームページ	指標・目標	アクセス数 33,453回/年	A	<p>アクセス数 33,453回/年</p> <p>アクセス数 36,873回</p> <p>フェイスブック投稿回数 50回/年</p> <p>フェイスブック投稿回数□9回</p> <p>取材・報道件数 25件/年</p> <p>取材・報道件数 3件</p>	B	<p>レファレンス業務は、内容の分析を続け、同じような質問の対応など、見直しを期待する。例えば図書館に寄せられた質問を博物館から回答するなど、連携による改善策もあるだろう。</p>	
		実績	アクセス数 36,873回					
	(基本事業) b. ソーシャルメディアの活用	指標・目標	フェイスブック投稿回数 50回/年	B				
		実績	フェイスブック投稿回数□9回					
	(基本事業) c. 広報の充実	指標・目標	取材・報道件数 25件/年	B				
		実績	取材・報道件数 3件					

3. 市民と協働し、ともに活動する博物館

目 標	市民が主体的に博物館の活動に参加できる市民参画を推進します。市民の視点に立ち、市民が集い、市民の参加を得て、希望や意見を反映させる市民とともに創る博物館をめざします。そのための博物館のサポーターとしてボランティアをはじめとする博物館を支える多様な人材を組織します。						
(中項目) ①市民参画と協働				自 己 評価点	自 己 評価点	外 部 評価点	
(小項目)	(重点項目) a. ボランティア活動の支援	指標・目標	活動人数 502人/年 活動日数 67日/年	B	<p>《市民参画と協働》 ボランティア活動は新型コロナ感染症対策のため大きく制限せざるをえなかった。特別企画のボランティア活動は展示準備の一部にとどまった。例年の学校団体見学がほぼ中止になり、児童への体験補助などの活動はできなかった。また、令和3年度夏季展示を中止としたため、実行委員会を立ち上げなかった。</p> <p>展覧会ごとに来館者向けのアンケートを5回実施し、集計を行ったが、回答率は全体平均で6.5%で、前年度より減少した。要因としては、新型コロナ対策のため、観覧の滞在時間をできるだけ短くするよう要請したことも影響しているのかもしれない。</p> <p>新型コロナ感染症対策のため、夏季展示の中止により市民講師、市民との協働事業は実施できなかった。</p> <p>《紫金山公園ビジターセンターの建設準備》 令和2年度に市の都市公園運営について、Park-PFI方式が導入され、柴金山公園もその対象となった。今後は、土木部公園みどり室と柴金山公園ビジターセンターのあり方を再度協議していくことになる。</p>	<p>コロナ禍の影響により、ボランティアや市民講師等の活動が大幅に制限された結果、指標を達成できていないものが多い。「市民と協働」する事業は、新型コロナ感染症拡大の影響を最も強く受けざるを得ず、目標数値に達せず、厳しい結果となったことはやむを得ない。しかし、コロナ禍を踏まえた上での準備や対応策の検討などはなされており、非常事態における、準備、対応のあり方の検討、維持として評価した。</p> <p>夏季展示の市民委員会等で多くの市民の参画を得ていると思うが、様々な属性を持った多様な市民が委員会に集えるような工夫も進めて頂きたい。今後、コロナ状況は落ち着く方向で推移していると考えられるが、アフターコロナのボランティア活動や市民参加の活動の姿を検討する必要がある。コロナだからできないことは事実だがそれをオンラインツールなどを用いてどう解決するかが問われるところ。市民とのオンラインでの共同は十分可能性のある、しかもこれから必須の対応となるところと考える。</p> <p>アンケートは、回答率が減少しているとのこと。観覧の滞在時間を短くするように要請したことについて、アンケート以外にもデメリットはなかったか、振り返る必要を感じる。</p> <p>紫金山ビジターセンターは博物館の別館としての機能を付加できると良い。さらに博物館の喫茶室機能も入ると良い。紫金山ビジターセンターの実現により、多様な市民の吹博との出逢いが期待できる。課題を乗り越えて頂きたい。</p>	B
		実績	活動人数 延べ345人 活動日数 延べ58日				
	(重点項目) b. 市民実行委員会による展示事業	指標・目標	実行委員参加人数 22人 実行委員活動日数 49日	B			
		実績	夏季展示中止のため実行委員会は組織せず				
	(基本事業) c. アンケートの実施	指標・目標	企画展示実施回数 (令和3年度は5回)	A			
		実績	アンケート実施件数 5件				
	(基本事業) d. 博物館事業への市民の参画	指標・目標	市民講師件数 50人 市民の原稿執筆件数 1件	B			
		実績	市民講師件数 0人 市民の原稿執筆件数 0件				
	(基本事業) e. 市民団体との協働事業	指標・目標	連携事業件数 3件	B			
		実績	連携事業件数 0件				
(中項目) ②紫金山公園ビジターセンターの建設準備							
(小項目)	(基本事業) a. 紫金山公園ビジターセンターの建設	指標・目標	ビジターセンター建設計画の進捗度	B			
		実績	自己評価欄に記載				

4. 社会とともに歩む博物館					
目標	学校、児童、生徒の利用を促進するため、小中高校の教職員と連携や利用プログラムの開発を行い、子どもたちが博物館に親しむ機会を増やします。また、博物館のもつ高い専門性や豊かな情報を社会に還元することで、地域のイメージアップや学芸員のスキルアップにつなげ、博物館活動にフィードバックさせます。				
(中項目) ①連携			自己評価点	自己評価点	外部評価点
(小項目)	(重点項目) a. 北大阪ミュージアム・ネットワーク	指標・目標	事業実施件数 1回/年	B	<p>《連携》 本年度はシンポジウム「新型コロナに立ち向かうミュージアム」を計画したが、新型コロナ感染症の影響により、実施できなかった。令和4年度に実施をする予定である。西国街道連携事業は中止となった。</p> <p>《学校教育との連携》 特別企画「むかしのくらしと学校」は社会科副読本の「市の様子のうつりかわり」に合わせ、令和3年度は、地域の緑地の減少を視覚的に捉えられる地図パネルを追加した。団体見学は13校で前年度よりは増加したが、コロナ以前までは回復していない。出前授業は8校で前年と同数であった。教職員研修は講義(吹田の歴史)、ワークショップ(学校の博物館利用について)を行った。参加者は9人。『吹田の歴史にふれてみよう』はデジタル版を作成し、市の学校間インターネットにて公開し、授業等で活用できるようにした。その活用のされ方について学校側の意見を聞き、改良していくことが今後は必要になる。さらに新型コロナの収束後においても学校教育のデジタル化は進むことが予想されることから他のデジタル教材の開発も検討していく。</p> <p>《人材育成》 館園実習は中止とした。施設見学・講義等による実習は1校(2回)、インターンシップは2人・のべ14日で実施した。JICA研修は中止。</p>
		実績	事業実施件数 0回		
	(基本事業) b. 他機関との連携事業	指標・目標	事業実施件数 1回/年	B	
		実績	事業実施件数 0回		
(中項目) ②学校教育との連携					
(小項目)	(重点項目) a. 学校教育による利用の促進	指標・目標	学校団体見学校数 28校 出前授業件数 7校 教員への研修 1回/年	B	<p>《人材育成》 館園実習は中止とした。施設見学・講義等による実習は1校(2回)、インターンシップは2人・のべ14日で実施した。JICA研修は中止。</p>
		実績	学校団体見学校数 13校 出前授業件数 8校 教員への研修 1回		
	(基本事業) b. 学校教育への支援	指標・目標	設定していない	A	
		実績	自己評価欄に記載		
(中項目) ③人材育成					
(小項目)	(基本事業) a. 実習・研修等の受け入れ	指標・目標	実習受入13校・人数22人 インターンシップ人数1人 JICA研修受入人数 5人	B	<p>『吹田の歴史にふれてみよう』デジタル版を作成し公開したことは評価できる。大阪府下でもいくつかの自治体で、自治体史編纂の副産物として、小中学校の児童・生徒用の写真を多く盛り込み平易な叙述を旨とする冊子が作成されている。それら冊子とは異なるデジタル版がどれほど普及しどのように活用されていくのか、注意深く見守っていきたい。学校もデジタル化が進んでいると思われるので、ぜひ意見を聞き、新たに何が求められているか、できるか検討し、内容を進化させていってほしい。アフターコロナに推移しても、リモート対応の活動は必要となると考えられ、デジタル版を使ったオンライン授業を行うことも一つの方法である。</p> <p>その他の事業については、「むかしのくらしと学校」は出前授業を含め熱心に取り組んでいるものの、コロナ禍の影響が多岐であり、学校見学等は先方事情に左右されることが多く、教員対象でなされたオンラインでの研修など、代替企画も検討されたい。</p> <p>実習受け入れ等に関しては、コロナ下での中止はあるが、積極的に受け入れ、実のある実習になるような工夫もされている。この方向性を堅持されたい。</p>
		実績	自己評価欄に記載		